

<合唱の楽しみ> 第四回「美しいハーモニーとは」

合唱曲を美しくハモらせて演奏するとは、調性の中で純正調律から生まれる和音をもって音にする(歌う)ことを言います。

それでは、調性とはどんなものでしょうか。それは、1 オクターブ内にある 12 の音(半音階)のそれぞれを主音の Do(ド)とする 12 の長音階と La(ラ)とする 12 の短音階、合計 24 の音階から生まれる和音を音階の中で繋いで、主(神)を導く音(導音)と主音(神)を結びつける関係を作ることによって生まれる音の響き(和音関係)を調性と言います。

言葉にするとわかりづらいので、音で体感しましょう。

導音 主音 導音 主音

左がハ長調、右がハ短調です。

このように 1 オクターブには 12 の音がありますから、同じように計 24 の調を作ることが出来ます。

平均調律では同じ音(純正調律では微妙に違う) それ

では次に純正

調律から生まれる和音とはどんな和音でしょうか。これを知るために音には倍音が含まれていることを体感しましょう。純正調律とは、実は倍音から生まれた 7 つの音を持って作られた音階を意味します。楽譜で示しますが、教会の dome の中では、倍音が発生しやすく体験することが出来ますが、平均調律がしっかりとされた Piano でも体感することが出来ます。仮に Do(ド)に含まれる倍音は次のようになります。

さて、こうして生まれてくる第2倍音(Do)と第3倍音(Mi)と第5倍音(Sol)のドミソの和音と平均律調律で作られるドミソの和音では、どれほどの違いがあるのでしょうか。音の基準を A(La)を(Do)とし、音の高さを 440Hz としたとき、

平均調律 A(ド)440 C#(ミ)554.37 E(ソ) 659.25

純正調律 A(ド)440 C#(ミ)550 E(ソ) 660 です。この差は大きい。